

筑豊小児科医会会報

Vol. 197 2023.6



Contents

- ◇ 今月のトピックス（小児科 病棟医長 荒木潤一郎）
- ◇ 研修医のご紹介
- ◇ 小児科関連勉強会のご案内
- ◇ AI-CAP 通信
- ◇ 飯塚病院 月間診療のまとめ《2023年3月》
- ◇ Pediatrics note（小児科 診療部長 大矢崇志）

発行：飯塚病院小児センター（飯塚市芳雄町 3-83）
（代表）TEL：0948-22-3800

今月のトピックス（小児科 病棟医長 荒木潤一郎）

● 小児科 病棟医長 荒木潤一郎

平素よりご高配を賜り感謝申し上げます。

飯塚病院小児科病棟では、病棟医師4名、救急医1名、家庭医1名、研修医2名で業務を行っております。

2020年より猛威を奮っていた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）も第8波の収束後、実際にCOVID-19の患者さんを診療する機会もほとんどない状況です。2023年5月8日をもって5類移行となりましたが、今後も第9波の起きる可能性や新たな変異株の出現の可能性もあり、病院

としては引き続きCOVID-19へのケアは続けざるを得ない状況であり、小児科病棟では付き添い交替の制限は設けていませんが、病院全体でも未だ面会制限は続いている状況です。

昨年冬よりインフルエンザウイルスがCOVID-19発生以降、初めて流行しましたが現在はそちらも落ち着き、RSウイルス感染症の診療を行う機会が増えております。今回のRSウイルス感染症においては呼吸状態の悪化を認める症例が多く、挿管管理・転院搬送を要する症例も数例経験しております。自分自身、4月より病棟医長を拝命しましたが、昨年度まで4年間大学病院勤務だったため、久しぶりの市中病院勤務であり、日々周囲のスタッフに助けられながら診療を行っております。今後もスタッフと協力し、筑豊地域により良い小児医療を提供できるよう尽力する所存です。



小児科医師

研修医のご紹介

● 初期研修医 1年目 わたなべ あみ 渡邊安未

はじめまして、初期研修医1年目の渡邊安未と申します。

宮崎県生まれで鹿児島大学出身です。当院への入職をきっかけに初めて飯塚へ参りました。小児科の研修では子どもの診察や疾患だけではなく、子どもとその家族との関わり方について学びたいと考えています。

研修医として初めて回る診療科が小児科で至らないところもありご迷惑をおかけすると思いますがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。それでは6週間よろしくお願いたします！



● 初期研修医 1年目 まきの さわこ 牧野佐和子

初期研修医1年目の牧野佐和子と申します。私は幼い頃、気管支喘息で何度か入退院した経験があり、体の苦しさを和らげるだけでなく、寄り添い安心感を与えてくれた当時の医師のような存在になりたいと思い、医師を志しました。小児科の研修では小児診察の基本、一人一人社会背景や性格の異なる子どもに合わせた寄り添い方を学びたいと考えています。

初期研修が始まったばかりでご迷惑をお掛けすることも多いと思いますが、精一杯励みますのでご指導の程よろしくお願いたします。



小児科関連勉強会のご案内

■ 第 346 回 筑豊小児科医会勉強会

- 日 時：2023年6月29日（木）18：30～20：00
- 形 式：ハイブリッド開催
- 会 場：のがみプレジデントホテル2階 日光の間

講演1 18:40～19:00

「これからはじめる 食物アレルギーの診断とIgE 検査の使い方」

飯塚病院 小児科 診療部長 田中祥一朗先生

講演2 19:00～20:00

「アトピー性皮膚炎、外用療法のステップを考える」

福岡市立こども病院 皮膚科 科長 工藤恭子先生

*事前申込が必要です。詳細につきましては案内状をご確認ください。

AI-CAP 通信

ヤングケアラーを適切な支援につなげるために

ヤングケアラーとは、年齢や成長の度合いに見合わない重い責任や負担を負って、本来、大人が担うべき家族の介護や世話をすることです。その背景には、少子高齢化や核家族化の進展、共働き世帯の増加、家庭の経済状況の変化といった様々な要因があります。

身体的・精神的に過度な負担が続くと、子どもの心身や教育に影響があると言われていますが、これまで実態がよくわかっておらず、十分に支援されていませんでした。ヤングケアラーの中には、ネグレクトや心理的虐待に至っているケースがあることを認識することが必要です。

学校生活への影響

- 遅刻・早退・欠席が増える
- 学校に通えない
- 勉強や部活の時間が取れない
など

進学や就職への影響

- 自分の可能性範囲を狭めて考えてしまう
- 自分のやってきたことをアピールできない
- 家族の世話を継続するために希望の進学・就職先を諦めてしまう
など

対人関係への影響

- 友人等とコミュニケーションを取れる時間が少ない
- 誰かに理解してもらおうことや相談することを諦めてしまう
など

ヤングケアラーの社会的認知度が低く、子ども自身や周囲の大人が気付くことができない、家庭内のデリケートな問題等の理由から、支援が必要であっても表面化しにくい構造となっています。

支援の第一歩は、「ヤングケアラー」と呼ばれる子どもが存在することを多くの方々に知っていただくことです。ヤングケアラーが抱える問題は、複雑で多岐にわたります。ヤングケアラーが自分の置かれた状況を理解し、支援を受けられるよう、社会全体で理解を深めることが重要です。

小児虐待防止委員会 委員長 田中 祥一郎

<AI-CAP 事務局へのお問い合わせ> TEL : 0948-88-8220 (直通) FAX : 0948-88-2806

飯塚病院 月間診療のまとめ 《2023年3月》

●入院患者数 109人 ●外来患者数 1,157人 ●救命救急センター受診者数 225人

●新生児センター入院患者数 12人 ●分娩件数 27件 ●手術件数 6件

●主要疾患数（退院患者数：90人）

肺炎・気管支炎	18	痙攣及びてんかん	8	低出生体重児	7
新生児呼吸障害・心血管障害	5	急性胃腸炎	4	急性上気道感染症	3
喘息	1	新生児感染症	1	その他	43

●3月紹介件数

小児科：111件			小児外科：17件		
①	宮嶋医院	8	①	有松病院	2
②	こどもクリニックもりた	5		雪竹医院	
③	いづかこども診療所	4	③	あざかみこどもクリニック	1
	飯塚市役所 子育て支援課 母子保健係			いづかこども診療所	
	ひじい小児科クリニック			くわの内科・小児科医院	
	平野医院			こどもクリニックもりた	
	弥永内科小児科医院			ささきこどもクリニック	
④	穎田病院	3		田川市立病院	
	嘉麻赤十字病院		田代医院		
	くわの内科・小児科医院 他3件		田中医院 他5件		

Pediatrics note (小児科 診療部長 大矢崇志)

ある日の外来にて。その日は患者さんが少なく、小学校に通うAさんのお母さんに小一時間、お話を聴きました。Aさんは生まれた頃から疳の強い子で、赤ん坊の頃からよく泣き、寝付きが悪く、過敏で偏食のある子でした。両親にとってAさんは、他のきょうだいと比べて育てにくく、悩みの種でした。お母さんは保健師さんや保育園の先生、かかりつけの小児科医に相談しましたが、発達に目立った問題が無いAさんは家の外では比較的大人しかった事もあり、皆に「子どもはそんなものですよ」と言われて終わりでした。お母さんの悩みは晴れず心配を抱えたまま、Aさんは小学生になりました。入学後、担任の先生に相談したところ「問題はありません」と言われ、お母さんは途方に暮れてしまいました。ところが、学年が上がって代わった先生が話をしっかり聴いてくれ、悩みを共有してくれました。「やっと話を聴いてもらえました」。話しながらお母さんは涙を流しました。長い間一人で悩んできたのでしょうか。少し前に進んだ事を一緒に喜びました。

お母さんの話は悩みを抱える人にとって最も必要なものを教えてくれます。彼女にとって必要なものは魔法のメソッドでも万能なマニュアルでもなく、真摯に話を聴き、一緒に考えてくれる人でした。さて、医療はまず患者さんの話を聴くことから始まりますが、聴くふりをしながら次に話す自分のセリフを考えてしまうことはありませんか？ 答えが決まっている質問ならそれで良いのですが、Aさんのお母さんのように悩みの内容が共感しづらい場合はそれでは不十分でしょう。謙虚な姿勢で真摯に話を聴き、急ぎで答えを決めつけない。とかく世間は早急に白黒をつけたがりますが、グレーな世界を一緒に探り、同じ色味の灰色を見つける過程がお互いの信頼を生むのだと私は思います。子どもに関わる人はいろんな灰色をじっくり味わえる人であってほしいですね。

そういえば、「白にも200色あんねん」って言ってた人いたなあ。奥は深いです・・・。

最新の情報は 飯塚病院ホームページよりご覧ください。

また、小児科・小児外科の詳しいご紹介や診療実績は「診療科のご紹介」をご覧ください。

外来担当表



小児科のご紹介



小児外科のご紹介

